

TOLI REPORT

株主・投資家のみなさまへ

第145期のご報告

(2008年4月1日～2009年3月31日)

●
●
●
●
人の集まる「場」に東リ。



東リ株式会社
証券コード:7971

ひとつの空間について考えることは、 そこに集まる人や、自然環境について考えること。

そこに集まる人に、毎日の生活を自由な色彩で描いてほしい。

快適で感性豊かな空間を提案するトータルインテリアメーカーとして、東りがお届けするのは、「365日のビューティフル」。

人を包みこむ空間、自然、社会との関わりの中で、大きな視点からインテリアを考えています。

株主・投資家のみなさまにはますますご清栄のこととおよろこび申し上げます。平素は格別のご支援ご愛顧を賜り、まことに有難く厚く御礼申し上げます。

さて、このたび第145期(2008年4月1日～2009年3月31日)を終了いたしましたので、当社グループの事業の概況および決算の状況などをご報告申し上げます。

当社グループの経営の基本方針

当社グループは、経営理念として＜インテリア事業を通じて生活文化の向上に貢献する＞＜顧客中心主義を行動規範とする＞＜トータルインテリアのリーディングカンパニーを目指す＞の3つを掲げ、事業活動を行っております。『すべてはお客様のために』を行動指針とし、住宅やオフィス、学校、医療・福祉

施設、商業施設など、あらゆる住・生活空間に豊かさをご提供するものづくりやサービスに努めることで、企業価値の向上に取り組んでおります。

また、法令を遵守することはもちろん、地球環境保全にも配慮するなど社会に対する責任を果たすべく、良識ある健全な企業活動に徹し、世の中から信頼され期待される企業グループを目指しております。

当社グループの営業の概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、米国金融機関の破綻を契機に、实体经济を巻き込んだ世界同時不況が起り、企業収益が大幅に落ち込むとともに雇用情勢は厳しさを増すなど、景気悪化が急速に進行いたしました。インテリア業界におきましては、2008

年夏以降、原油相場が下落し、原材料の購買条件は改善傾向にあるものの、設備投資の急減により内装工事の需要は低迷し、経営環境は大変厳しい状況が続きました。

こうしたなか、当社グループは中期経営計画「GROW UP 2008」の最終年度にあたり、事業収益力の強化と企業価値の向上を目指した取り組みを推し進めてまいりましたが、取り巻く環境は非常に厳しく、当連結会計年度における売上高は91,329百万円(前期比5.5%減)、経常利益は682百万円(前期比10.3%増)、当期純利益は366百万円(前期比140.0%増)となりました。

対処すべき課題

当社グループは、中期経営計画「変革と挑戦 2011」を策定し、重点戦略目標達成に



Flooring



Wall



Curtain



人の集まる「場」に東り。



東りコーポレートシンボル「365日のビューティフル」

やわらかな曲線でTの字を型どったフォルムは、無限の可能性に挑戦する東りの姿勢を。美しく鮮やかなカラーは、毎日の生活を自由に描く豊かな感性を。浮かび上がるTOLIの文字は、確かな技術力と国際性を表現しています。

向けた取り組みを推進してまいります。当社グループは、業界を牽引するトータルインテリアメーカーとして、その社会的使命を認識し、お客様に快適なライフスタイルをご提案するため、きめ細かな商品展開や積極的な販売促進に尽力してまいります。中期経営計画を着実に推進することを通じ、原油価格の変動に伴う主要原材料コストの上昇や競合激化など不透明な経営環境課題を乗り越え、当社グループがさらに強靱な事業基盤を確立し、成長を加速させることが重要な経営課題と考えております。

また、当社グループは、メーカーとして、「環境保全」や「安全品質」に対する取り組みは最優先課題の一つであると認識しております。2000年1月に、人と地球にやさしい企業グループでありたい、という思いを「東りエコスピリット」というかたちにし、さまざまな側面から真剣に環境問題と向き合っていました。

2008年8月、その「東りエコスピリット」を改訂し、低炭素化の推進をはじめとする地球環境保全への取り組みをさらに強化することとしております。限りある資源を有効に活用しながら、人と地球にやさしい商品の研究開発に努めて皆さまにご提供していくことで、企業市民としての責任を果たし、「世の中から信頼され、期待される」企業グループであり続けるよう、努力してまいります。

当社グループは、会計をはじめとするあらゆる業務の適正を確保することも重要な経営課題と認識しております。その一環として当社グループでは、2008年4月より適用が開始される金融商品取引法に対応した「財務報告に係る内部統制システム」を構築してまいりました。このシステムを確実に運用することで、当社グループが行う財務報告の信頼性をこれまで以上に高め、企業経営のより一層の効率化・明瞭化とガバナンス体制の強化に

取り組んでまいります。

株主・投資家のみなさまにおかれましては、今後ともより一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長

柏原賢二

納入実績

エリア	物件名
北海道	株式会社ロイズコンフェクト ふと美工場
北海道	札幌市民ホール
宮城県	仙台榴岡ビル
長野県	日本電産株式会社 新長野技術開発センター
新潟県	新潟大学 医歯学総合病院中央診療棟
東京都	東京モード学園 コクーンタワー
埼玉県	モラージュ菫蒲
愛知県	トヨタ自動車株式会社 元町工場生産技術棟
愛知県	名古屋大学 医学部付属病院外来診療棟
大阪府	中之島ダイビル
大阪府	日本生命 本店新南館ビル
山口県	株式会社トクヤマ 多結晶シリコン新工場
愛媛県	愛媛大学 総合教育棟
福岡県	太刀洗平和記念会館
長崎県	稲佐山温泉 ホテルアマンディ

納入物件



●横浜ランドマークプラザ
4,5F共有通路
(神奈川県)

・別注プリントタイルカーペット



●エアポートウォーク名古屋
(愛知県)

・タイルカーペット
(モールシティ、ディープフィールド)



●さいたま市民医療センター
(埼玉県)

・タイルカーペット
(GA9900)

塩ビ製品事業

塩ビ製品事業につきましては、前半においては商業施設向けの塩ビタイルや大型工場向けの機能性を備えた長尺シートが売上を伸ばしました。また、新しい視点で開発した賃貸住宅向け塩ビタイルが好調に推移しましたが、後半は民間設備投資の減退とともに需要の縮小がみられ、主力商品のマンション開放廊下用防滑性ビニル床シートも売上が大幅に減少しました。

この結果、塩ビ製品事業の売上高は、前期に比べ2.7%減の30,849百万円、営業利益は2,100百万円(前期1,809百万円)となりました。

主 な 製 品

◆ビニル床タイル「メルストーンコンビネーションシリーズ」

主力商品であるメルストーンに、同柄、同色で3つのサイズを新たにご用意しました。3つのサイズを組み合わせることで、手軽なデザイン貼りが可能になりました。

◆ビニル床タイル「イククリン」

プリントタイルを基材に、表面に特殊な高耐久UV樹脂コーティングを施し、高耐久防汚機能を有した機能性タイルです。

◆ビニル床タイル「リフライブ」

塩ビタイルならではの柄感、質感を有した新しい表情のタイルです。自然素材ではあり得ない、洗練されたストライプ柄は、従来品では表現できなかったモダンな空間や、上質で落ち着いた空間を創出します。

◆ビニル床シート「NSフラッティ」

フラットだけど滑りにくい。フラットだからメンテナンスしやすい。安全性とメンテナンス性を両立した防滑性ビニル床シートです。



メルストーンコンビネーションシリーズ PT8203-300 PT8203-30×60

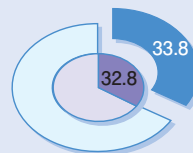


リフライブ RFT7008 RFT7009

NSフラッティ
NS4505 NS4506

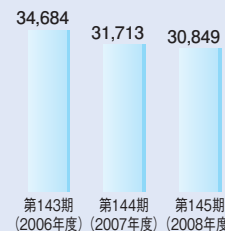
【塩ビ製品事業の連結売上高推移】

■2008年度塩ビ製品事業
連結セグメント売上高構成比(%)



内円:前期
外円:当期

■塩ビ製品事業
連結セグメント売上高推移 (単位:百万円)



繊維製品事業

繊維製品事業につきましては、前半においては「GX」や「VARY」といった意匠性の高いタイルカーペットのシリーズが好調に推移しましたが、後半は低価格品へのシフトが顕著にあらわれ、また、カーテンは新設住宅の着工低迷と個人消費の不振から需要の減少傾向がみられました。

この結果、繊維製品事業の売上高は、前期に比べ7.7%減の28,162百万円、営業利益は363百万円(前期263百万円)となりました。

主 な 製 品

◆タイルカーペット「VARYシリーズ」

☆ブランチャライン(GX9500V)

黒柳の枝影をVARYサイズ(250mm×1,000mm)にデザイン表現することにより、タイルカーペットとは思えない優雅さと気品を生みだしました。

☆スラローム(GX6400V)

VARY独自のロングサイズが創り出す量感あるウェーブデザイン。

さまざまな50cm角タイルカーペットと組み合わせると更に多様な演出が可能です。

☆グローネスト(GX9200V)

ピンストライプによる洗練されたデザイン。

シンプルな中にもパイルの陰影が生み出す上質さが新鮮です。

☆マドリファ(GX9100V)

上質な色糸を緻密に織り込んだストライプパターン。1メートルモジュールが無数のフロア演出を創造します。

◆「東リカーテン プラスボヌール 2008-2010」

今の生活にプラスしてこのカーテンを選んでよかったと言う喜びを表現した【bonheur:フランス語 幸福 喜び】を組み合わせたブランド名としました。

プラスボヌールの収録商品は、ファブリックに最も適した加工方法を標準縫製とし、基本はリーズナブルで美しいドレープ感の楽しめるソフトプリーツを標準としております。



ブランチャライン GX9502V GX3010



プラスボヌール
KTB1147 KTB1461



ラグ TOR2837

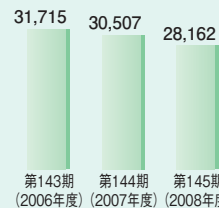
【繊維製品事業の連結売上高推移】

■2008年度繊維製品事業
連結セグメント売上高構成比(%)



内円:前期
外円:当期

■繊維製品事業
連結セグメント売上高推移(単位:百万円)



その他事業

その他事業につきましては、2008年6月に発売した「お薦めリフォーム壁紙2008-2011」が順調に売上を伸ばしましたが、新築マンション市場が不振で量産タイプ壁装材の売上が振るわず、また販売子会社における工事や仕入商品の売上が減少しました。

この結果、その他事業の売上高は、前期に比べ6.1%減の32,317百万円、営業損失は231百万円(前期営業利益311百万円)となりました。

主 な 製 品

◆壁装材「環境・素材コレクション」

紙素材、繊維素材、無機質素材など自然素材を中心に、素材が持っている特長を壁紙で最大限に表現しました。また、「カーボンニュートラル」の考え方に基づき低炭素化に配慮し、森林などの豊かな自然環境の保護・再生を推進し、自然との共生を実現します。さらに安全性と室内環境に配慮し、全点がシックハウス対策にて面積制限を受けない「F☆☆☆☆」品です。また、生活臭等の吸着・分解に優れた「アースウォール」をはじめ、竹炭の消臭機能を持たせた「竹炭ケナフウォール」、汚れが落ちやすい「防汚ケナフウォール」や「ソフトクロス」、さらには光触媒や備長炭を応用した「織物」など、住まう人の快適性を追及しています。

◆壁装材「お薦めリフォーム壁紙 2008-2011」

新築からリフォームまで、施工性に優れた厚みのある発砲タイプを中心に取り揃えました。下地隠ぺい性やスピーディーな施行が求められる物件でも安心してお使いいただけます。



環境・素材コレクション 竹炭ウォール WEN5107



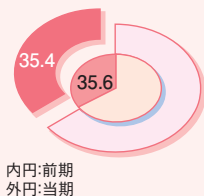
環境・素材コレクション
さざなみ和紙 WEN6352



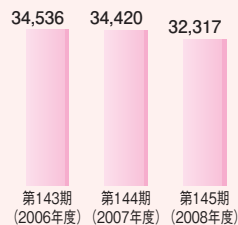
お薦めリフォーム壁紙
WVC244 WVC246

【その他事業の連結売上高推移】

■2008年度その他事業
連結セグメント売上高構成比(%)



■その他事業
連結セグメント売上高推移 (単位:百万円)



業績推移

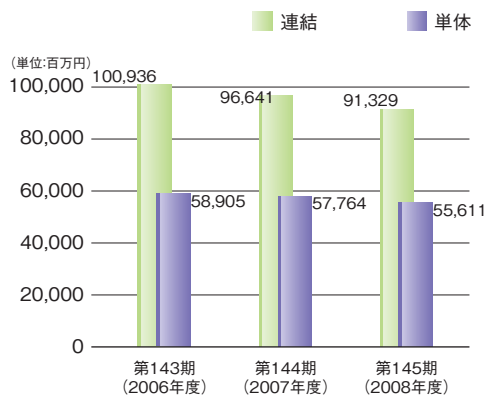
(単位:百万円)

連 結	第143期 (2006年度)	第144期 (2007年度)	第145期 (2008年度)
売上高	100,936	96,641	91,329
経常利益	2,128	618	682
当期純利益	1,619	152	366
1株当たり当期純利益 (円)	25.44	2.40	5.82
総資産	78,034	70,198	66,805
純資産	27,340	25,769	24,621
1株当たり純資産 (円)	428.12	402.76	391.05

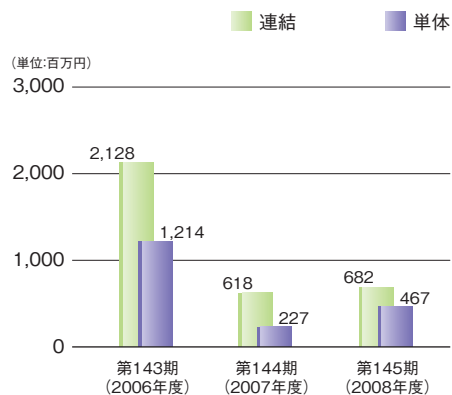
(単位:百万円)

単 体	第143期 (2006年度)	第144期 (2007年度)	第145期 (2008年度)
売上高	58,905	57,764	55,611
経常利益	1,214	227	467
当期純利益	801	27	117
1株当たり当期純利益 (円)	12.58	0.44	1.86
総資産	63,450	58,592	56,876
純資産	22,974	21,360	20,058
1株当たり純資産 (円)	362.52	337.01	321.82

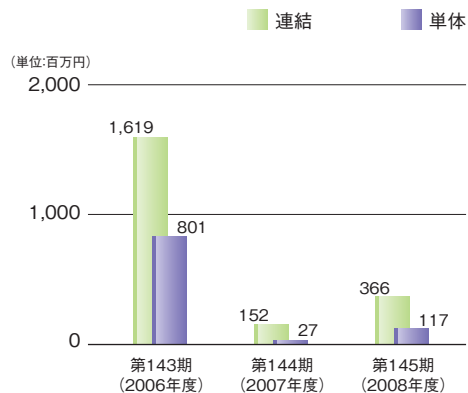
■ 売上高



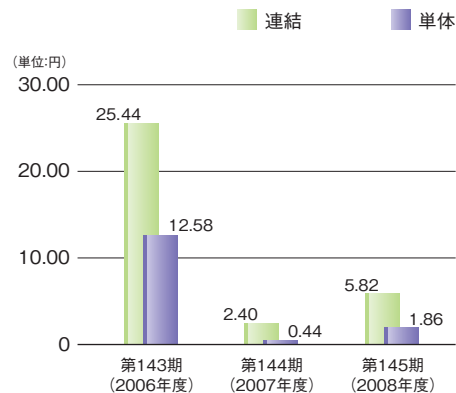
■ 経常利益



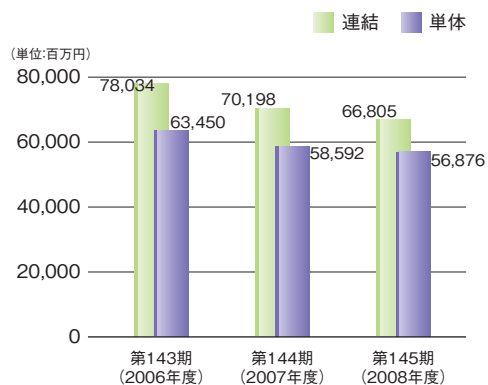
■ 当期純利益



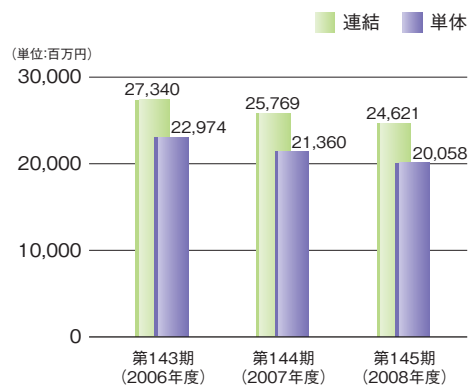
■ 1株当たり当期純利益



■ 総資産



■ 純資産



連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	第144期 (2008年3月31日現在)	第145期 (2009年3月31日現在)	増 減
流動資産	43,171	40,513	△ 2,657
現金及び預金	4,032	5,454	1,421
受取手形及び売掛金	27,607	24,767	△ 2,839
有価証券	763	713	△ 50
たな卸資産	9,272	8,567	△ 705
繰延税金資産	1,035	688	△ 347
その他	666	793	126
貸倒引当金	△ 208	△ 471	△ 262
固定資産	27,027	26,291	△ 735
有形固定資産	18,031	18,333	301
建物及び構築物	5,821	6,334	512
機械装置及び運搬具	2,923	2,691	△ 231
土地	8,728	8,685	△ 42
その他	557	621	63
無形固定資産	1,337	1,032	△ 305
投資その他の資産	7,658	6,926	△ 731
投資有価証券	4,492	2,901	△ 1,590
長期貸付金	298	267	△ 30
繰延税金資産	1,115	2,078	962
その他	2,207	2,003	△ 204
貸倒引当金	△ 455	△ 323	131
資 産 合 計	70,198	66,805	△ 3,392

注)1.有形固定資産の減価償却累計額 32,910百万円
2.受取手形割引高 42百万円

33,756百万円
38百万円

POINT 1

当期末の総資産は、前期末に比べ3,392百万円減少し、66,805百万円となりました。流動資産は、前期末に比べ2,657百万円減少し、40,513百万円となりました。この主な要因は、売上債権の減少によるものです。固定資産は、前期末に比べ735百万円減少し、26,291百万円となりました。この主な要因は、株式の時価の下落により投資有価証券の評価額が減少したことによるものです。

POINT 2

当期末の負債合計は、前期末に比べ2,244百万円減少し、42,184百万円となりました。流動負債は、前期に比べ3,816百万円減少の26,612百万円、固定負債は、前期に比べ1,571百万円増加の15,571百万円となりました。流動負債が減少した主な要因は、売上高の減少に伴う仕入債務の減少によるものです。固定負債が増加した主な要因は、同額の借り換えに伴う長期借入金の増加によるものです。

科 目	第144期 (2008年3月31日現在)	第145期 (2009年3月31日現在)	増 減
流動負債	30,428	26,612	△ 3,816
支払手形及び買掛金	24,992	22,489	△ 2,502
短期借入金	300	340	40
1年内返済長期借入金	2,100	600	△ 1,500
その他	3,036	3,182	146
固定負債	13,999	15,571	1,571
長期借入金	7,700	9,200	1,500
退職給付引当金	4,409	4,126	△ 282
その他	1,890	2,245	354
負 債 合 計	44,428	42,184	△ 2,244
株主資本	24,268	23,989	△ 278
資本金	6,855	6,855	—
資本剰余金	6,488	6,488	△ 0
利益剰余金	11,787	11,710	△ 76
自己株式	△ 863	△ 1,064	△ 201
評価・換算差額等	1,259	383	△ 875
その他有価証券評価差額金	1,241	383	△ 858
為替換算調整勘定	17	—	△ 17
少数株主持分	241	248	6
純資産合計	25,769	24,621	△ 1,147
負債及び純資産合計	70,198	66,805	△ 3,392

POINT 3

当期末の純資産合計は、前期末に比べ1,147百万円減少し、24,621百万円となり、自己資本比率は、前期末の36.4%から36.5%となりました。この主な要因は、株式の時価の下落により、その他有価証券評価差額金が減少したことによるものです。

連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	第144期 (2007年4月1日～ 2008年3月31日)	第145期 (2008年4月1日～ 2009年3月31日)	増 減
売上高	96,641	91,329	△ 5,312
売上原価	72,040	67,606	△ 4,434
売上総利益	24,601	23,722	△ 878
販売費及び一般管理費	23,766	22,995	△ 770
営業利益	834	727	△ 107
営業外収益	426	425	△ 1
営業外費用	642	470	△ 172
経常利益	618	682	63
特別利益	11	336	324
特別損失	219	479	260
税金等調整前当期純利益	411	538	127
法人税、住民税及び事業税	171	208	37
法人税等調整額	96	△ 46	△ 142
少数株主損失(△)	△ 9	9	19
当期純利益	152	366	213

注) 1株当たり当期純利益

2円40銭

5円82銭

POINT 4

当期の売上高は、昨年度より続く建築着工量の落ち込みに加え、金融危機に端を発した秋口からの景況悪化による需要減等の影響を受け、前期に比べ5.5%減の91,329百万円となりました。損益面では、昨夏以降原油相場が下落し、原材料の購買条件は改善傾向にあるものの需要の低迷から、経常利益は前期に比べ10.3%増の682百万円、当期純利益は、前期に比べ140.0%増の366百万円となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	第144期 (2007年4月1日～ 2008年3月31日)	第145期 (2008年4月1日～ 2009年3月31日)	増 減
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,480	3,168	687
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 866	△ 1,072	△ 205
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,231	△ 724	506
現金及び現金同等物の増加額	382	1,371	989
現金及び現金同等物の期首残高	4,398	4,783	385
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	3	—	△ 3
現金及び現金同等物の期末残高	4,783	6,155	1,371

POINT 5

当期末における現金及び現金同等物は、前期末に比べ1,371百万円増加し、6,155百万円(前期末4,783百万円)となりました。

【営業活動によるキャッシュ・フロー】

商品販売やサービス提供など本来の事業によって、どれだけの資金を獲得したかを表しています。当期における営業活動による資金収支は、3,168百万円(前期2,480百万円)となりました。たな卸資産の減少等により、前期に比べ増加しました。

【投資活動によるキャッシュ・フロー】

将来の利益獲得、資金運用のためにどれだけの資金を支出し、または回収したかを表しています。当期における投資活動による資金収支は、△1,072百万円(前期△866百万円)となりました。有形固定資産(研修センター)の取得による支出の増加により、前期に比べ減少しました。

【財務活動によるキャッシュ・フロー】

営業活動と投資活動を維持するために、どの程度の資金が調達・返済されたかを表しています。当期における財務活動による資金収支は、△724百万円(前期△1,231百万円)となりました。前期は社債の償還があったこと等により、前期に比べ増加しました。

連結株主資本等変動計算書 (2008年4月1日～2009年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本					評価・換算差額等			少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
前期末残高	6,855	6,488	11,787	△ 863	24,268	1,241	17	1,259	241	25,769
当期変動額										
剰余金の配当			△ 443		△ 443					△ 443
当期純利益			366		366					366
自己株式の取得				△ 202	△ 202					△ 202
自己株式の処分		△ 0		1	1					1
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)						△ 858	△ 17	△ 875	6	△ 869
当期変動額合計	—	△ 0	△ 76	△ 201	△ 278	△ 858	△ 17	△ 875	6	△ 1,147
当期末残高	6,855	6,488	11,710	△ 1,064	23,989	383	—	383	248	24,621

貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	第144期 (2008年3月31日現在)	第145期 (2009年3月31日現在)	増 減
流動資産	36,577	35,484	△ 1,092
固定資産	22,015	21,391	△ 623
有形固定資産	12,827	13,275	448
無形固定資産	1,048	842	△ 205
投資その他の資産	8,139	7,273	△ 866
資産合計	58,592	56,876	△ 1,716
流動負債	24,375	22,467	△ 1,908
固定負債	12,856	14,350	1,494
負債合計	37,232	36,817	△ 414
株主資本	20,226	19,698	△ 528
資本金	6,855	6,855	—
資本剰余金	6,488	6,488	△ 0
利益剰余金	7,744	7,418	△ 326
自己株式	△ 863	△ 1,064	△ 201
評価・換算差額等	1,134	360	△ 774
純資産合計	21,360	20,058	△ 1,302
負債及び純資産合計	58,592	56,876	△ 1,716

注)有形固定資産の減価償却累計額 23,996百万円 24,517百万円

損益計算書

(単位:百万円)

科 目	第144期 (2007年4月 1日～ 2008年3月31日)	第145期 (2008年4月 1日～ 2009年3月31日)	増 減
売上高	57,764	55,611	△ 2,152
売上原価	41,464	39,783	△ 1,680
売上総利益	16,300	15,828	△ 471
販売費及び一般管理費	16,053	15,428	△ 625
営業利益	246	400	153
営業外収益	545	499	△ 45
営業外費用	564	433	△ 131
経常利益	227	467	239
特別利益	54	300	245
特別損失	190	591	401
税引前当期純利益	91	175	83
法人税、住民税及び事業税	40	40	0
法人税等調整額	24	17	△ 6
当期純利益	27	117	89

注)1株当たり当期純利益 0円44銭 1円86銭

株主資本等変動計算書 (2008年4月1日～2009年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本									評価・換算差額等		純資産 合計
	資本金	資本準備金	資本剰余金	資本剰余金 合計	利益剰余金		自己株式	株主資本 合計	他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計		
			その他資本 剰余金		その他利益剰余金	利益剰余金 合計						
前期末残高	6,855	1,789	4,698	6,488	6,800	944	7,744	△ 863	20,226	1,134	1,134	21,360
当期変動額												
剰余金の配当						△ 443	△ 443		△ 443			△ 443
当期純利益						117	117		117			117
自己株式の取得								△ 202	△ 202			△ 202
自己株式の処分			△ 0	△ 0				1	1			1
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)										△ 774	△ 774	△ 774
当期変動額合計	—	—	△ 0	△ 0	—	△ 326	△ 326	△ 201	△ 528	△ 774	△ 774	△ 1,302
当期末残高	6,855	1,789	4,698	6,488	6,800	618	7,418	△ 1,064	19,698	360	360	20,058

インテリアトレンドショー JAPANTEX 2009

JAPANTEX 2009 開催概要

名 称……インテリアトレンドショー 第28回 JAPANTEX 2009
会 期……2009年11月11日(水)～13日(金) 10:00～18:00 最終日は17:00まで
主 催……社団法人日本インテリアファブリックス協会
会 場……東京国際展示場(東京ビッグサイト)
西ホール+アトリウム
テーマ……good day, good style
おもてなしの心と自分らしさの発見!



(注) 上の写真は昨年の「東リブース」です。

■ 当社の概要

(2009年3月31日現在)

創 立 1919年(大正8年)12月1日
 資 本 金 6,855百万円
 従 業 員 数 699名
 主 な 事 業 内 容 ・ 塩ビ製品……塩ビタイル、塩ビシート
 ・ 繊維製品……カーペット、カーテン
 ・ そ の 他……壁装材、床材用接着剤など

■ 本社および事業所

本 社 兵庫県伊丹市東有岡5-125
 東 京 本 部 東京都港区東新橋2-10-4
 工 場 伊丹、厚木
 ショールーム 札幌、東京、名古屋、大阪
 営業所所在地 札幌、盛岡、仙台、さいたま、水戸、千葉、東京、八王子、
 横浜、長野、新潟、名古屋、石川、静岡、京都、大阪、
 神戸、岡山、広島、高松、松山、福岡、北九州、鹿児島

■ 役員

(2009年6月26日現在)

〈 取締役・監査役 〉	代 表 取 締 役 社 長	柏 原 賢 二
	専 務 取 締 役	藤 田 佑 治 * ¹
	常 務 取 締 役	吉 森 忠 重 * ¹
	取 締 役	大 谷 正 男 * ¹
	取 締 役	永 嶋 元 博 * ¹
	常 勤 監 査 役	福 岡 隆 志
	常 勤 監 査 役	尾 田 正 孝
	監 査 役	堀 村 不器雄 * ²
	監 査 役	春 名 一 典 * ²

(注) *¹印を付した4氏は、取締役と執行役員
 の兼務者であります。
 *²印を付した2氏は、会社法第2条第16号
 に定める社外監査役であります。

〈 執行役員 〉	執 行 役 員	山 本 正 人
	執 行 役 員	浪 花 芳 法
	執 行 役 員	武 田 松 利
	執 行 役 員	小 谷 良 道
	執 行 役 員	鈴 木 潤

● 株主メモ

決 算 期 3月31日
 定時株主総会 6月
 基 準 日 定時株主総会 3月31日
 期 末 配 当 金 3月31日
 中 間 配 当 金 9月30日

単 元 株 式 数 1,000株

株主名簿管理人及び 三菱UFJ信託銀行株式会社
 特別口座の口座管理機関 〒100-0005 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
 事務取扱場所 〒530-0004 大阪市北区堂島浜一丁目1番5号
 (お問合せ先) 0120-094-777(通話料無料)

(ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっておりますので、口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にでもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

【お知らせ】 ● 株式関係の手続きのご請求は、次の三菱UFJ信託銀行株式会社のフリーダイヤルおよびインターネットでも24時間承っております。

・電話(通話料無料) 0120-244-479(本店証券代行部)
 0120-684-479(大阪証券代行部)
 ・ホームページアドレス <http://www.tr.mufg.jp/>

公 告 の 方 法 電子公告の方法により、下記の東リホームページに掲載します。但し、電子公告によることができないやむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載します。

ホームページアドレス

<http://www.toli.co.jp>

※ 本誌に関する注意事項

本誌に記載されている当社グループの計画・戦略・見通しのうち、歴史的事実でないものは将来の業績に関する見通しです。これらは、現時点で入手可能な情報に基づいた当社グループの仮定および判断によるものであり、実際の業績等は、さまざまな要因により、これらの見通しと異なる可能性があります。

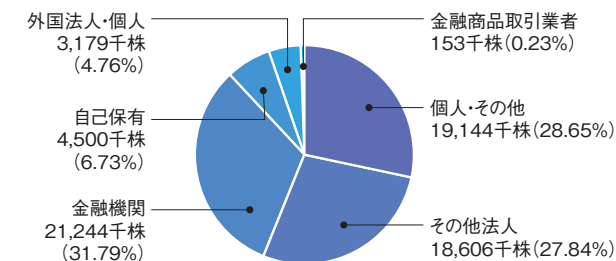
■ 株式数および株主数

(2009年3月31日現在)

- ・発行可能株式総数 141,603千株
- ・発行済株式総数 66,829千株
- ・株主数 6,480名
- ・1人当たりの平均持株数 10,313株

■ 株式分布状況

(2009年3月31日現在)



■ 大株主

(2009年3月31日現在)

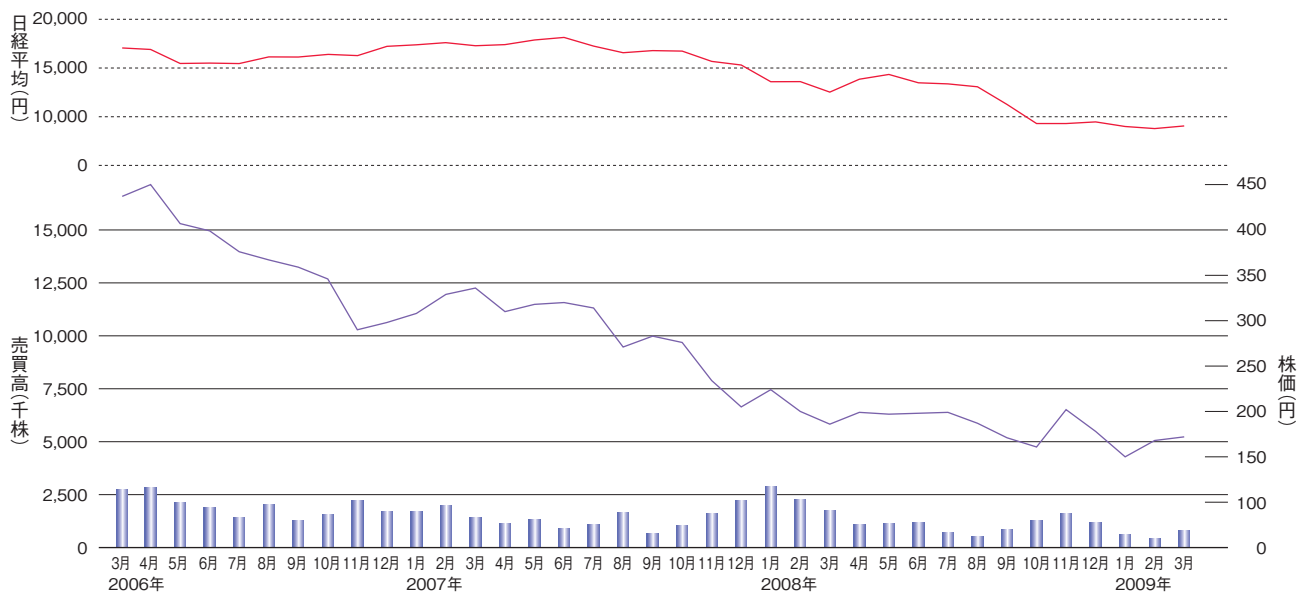
株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	4,595	7.3
日本生命保険相互会社	4,551	7.3
株式会社トクヤマ	2,780	4.4
双日株式会社	2,532	4.0
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,777	2.8
三信株式会社	1,730	2.7
日興シティ信託銀行株式会社	1,696	2.7
帝人テクノプロダクツ株式会社	1,489	2.3
三菱UFJ信託銀行株式会社	1,485	2.3
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	1,393	2.2

* 当社の自己保有株式は、上表より除いております。

* 持株比率は、自己株式(4,500千株)を控除して計算しております。

■ 株価と売買高の推移 (東京証券取引所)

■ 売買高(千株) ■ 株価(円) ■ 日経平均(円)



東リ株式会社 <http://www.toli.co.jp>

当社は、インターネット上にホームページを開設し、会社情報、商品紹介、レポートやニュースをご案内いたしております。



TOLI ECO SPIRIT

東リ エコスピリット

この報告書は再生紙を使用しています。